

特集 伝えたい、寺尾のこと。

四季折々の草花、のどかな田園風景、歴史ある出流そば。寺尾の魅力をみんなに伝えて、地区をもっと元気に。そんな思いをもって、新たに着任した地域おこし協力隊の挑戦がはじまっています。



寺尾地区を象徴する三峰山。その特徴的な形は「鍋を伏せたような」「ソウが横たわったような」とも形容され、地元では「鍋山」「ぞう山」と呼ばれることも。

山々に囲まれた豊かな自然とのどかな田園風景が魅力の寺尾地区

市の北西部に位置する寺尾地区。梅沢町、尻内町、大久保町、鍋山町、星野町、出流町の6つの区域から成ります。「寺尾」という地名の由来は諸説ありますが、一説には、地区内にある出流山満願寺から流れ出る水が片角川・出流川を経て永野川と合流する区域、満願寺(寺)から流れる水の downstream (尾) の地域に寺尾、と言われます。

三方を山に囲まれた寺尾は、豊かな自然が様々な表情を見せてくれます。セツブンソウやカタクリ、シユウカイドウなど四季折々の花々、のどかな田園風景、川のせせらぎ、澄み切った星空など、のどかな田舎の風景が楽しめる地域です。また、農業も盛んで、米や、いちご・トマトをはじめとする各種野菜など、寺尾の豊かな自然に裏打ちされた幸を味わうことができます。

地区内の出流町は、古来より出流山満願寺の門前町として栄え、参拝者に蕎麦をふるまったことを起源とする「出流そば」が親しまれています。希少な植物の宝庫である星野町では縄文時代の遺跡や石器が発見され、現在「星野遺跡記念館」として公開されています。

寺尾地区に住んでいる皆さんの結びつきは強く、体育祭、盆踊り、文化祭など、年間を通して様々な行事が行われています。また、「寺尾まちづくり協議会」が中心となり、「米作り体験教室」や「ウォーキング大会」など、豊富な資源をPRする様々なイベントも開催されています。

過疎化による活力低下の懸念

自然豊かな寺尾地区ですが、一方で

課題もあります。近年、全国的に地方の人口減少や高齢化が問題になっていますが、栃木市も例外ではありません。寺尾地区でも過疎化が進行し、地域の活力の低下が心配されています。また、地区内の空き家の増加や、豊かな自然を持つ反面、獣害が増加するなど課題も抱えます。

地域を元気にするために

様々な魅力と課題を併せ持つ寺尾地

区。その活性化のため、今年6月、栃木市の新たな地域おこし協力隊員として國府谷純輝さんが着任しました。寺尾公民館を拠点に、地域経済について専攻した学生時代の知識と、前職の経験を活かしながら、自由な発想で、寺尾地区のPRや地域資源の発掘などの活動に取り組んでいます。

國府谷隊員の今後の活動に、ぜひ注目ください。



1 毎年、大寒の日に奉納される寒ざらしそばは出流地区の風物詩 / 2 寺尾の豊かな自然を背景にした米作り教室 / 3 夏祭り。地元の子供たちによる盛大なお囃子の披露 / 4 寺尾産のサツマイモを使ったスイートポテト作りを地元の皆さんに教わる中学生

10年後のあなたの家、誰が直すのでしょうか。



ずっっとこの家で暮らしたいね。

価格だけだったら大手量販店に分があるにも関わらず、今も残る町の電気屋さんには根強い人気があるのではありませんか。皆様もご存知のように、機械はいつか動かなくなり、動かなくなると、誰の顔が浮かぶでしょうか。困ったときに、町の電気屋さんにはすぐに駆けつけてくれる。この安心感がなによりも大切なのではないのでしょうか。家もいつかはメンテナンスが必要になります。そんなとき、すぐに駆けつけてくれる工務店は身近にあるのでしょうか。今、家造りの職人がどんどん減っています。今後、増加に転じる見込みはまずありません。人口減少に伴い、住宅着工数が減っていく、建てた会社が地方から撤退となった時どうなるのでしょうか。建ててすぐは問題ありません。ですが、10年後、20年後、誰があなたの家を守ってくれるのでしょうか。必要な時に、頼む相手がいないという状況がすぐそこまで迫っているのです。これから家を建てる方も、すでに家を建てた方も、何かあったときにすぐに駆けつけられる工務店とのつながりを今のうちに作っておくことが大切になってきます。